

系 車

編集 山形村ふるさと伝承館



平成十六年一月、ふるさと伝承館の北側に二十坪ほどの面積の、平屋の建物が完成しました。道路からも見えるので、何だろうと思われた方もいらっしゃるかもしれません。この建物は村内の遺跡から出土した土器や石器などを整理し保管するための収蔵庫兼作業場として計画されたもので、昨年の十二月から工事が行われてきました。

建物の老朽化も著しい伝承館ですが、村内の文化財保護の中心的な役割を果たしてきました。ここに新しい力を得てさらに歩を進めます。

収蔵庫の役割とふるさと伝承館

伝承館には村内から集められた昔の民具や、村内の遺跡から出土した土器などが展示されています。これらの展示は普段皆さんがご覧になるところですが、今回はあまり皆さんが目にすることの無い、伝承館の舞台裏についてご紹介したいと思います。

遺跡と遺物

ご存知の方も多いことと思いますが、山形村内には多数の遺跡が存在しています。現在のところ三十箇所以上の遺跡の存在が確認されており、必要に応じて発掘調査が行われています。発掘調査が行われる理由はいくつかありますが、ほとんどの場合は緊急発掘と呼ばれるものです。これは、建物を造ったり、道路を造つ

たりといった開発によって遺跡が壊されてしまう場合に、やむを得ず遺跡を記録に残すため工事に先立って行われるものです。発掘調査を行うと大量の土器や石器が出土しますが、これら土器や石器など、昔の人が生活に使用したモノを「遺物」と呼びます。これに対して、昔の人が住んでいた家の跡や穴、溝など、生活の痕跡のことを「遺構」と呼びます。

発掘現場では、この遺構を丁寧に手作業で掘り下げて写真や図面などに記録し、出土した遺物を回収します。回収された遺物は、貴重な文化財として扱われ、保管されなければなりません。山形村の場合は、今までふるさと伝承館の中に保管されてきました。

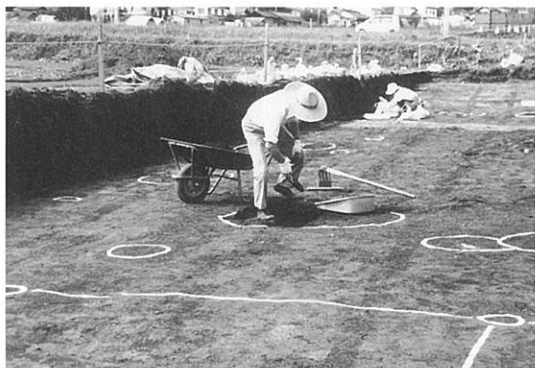
遺物が展示されるまで

伝承館の一階には、村内各所の遺跡から出土した土器や石器など出土遺物を展示しているコーナーがあり、発掘調査で得られた成果を皆さんのお目にかけることができます。山形村の遺跡はと

りわけ縄文時代の遺跡が多く、当然伝承館にも縄文時代の遺物が多数展示されています。様々な形・模様を見せる縄文土器や、村内の淀の内遺跡から出土したヒスイ製の太珠などは、これらを目当てに村外から伝承館を訪れるお客様もいらっしゃるほどです。

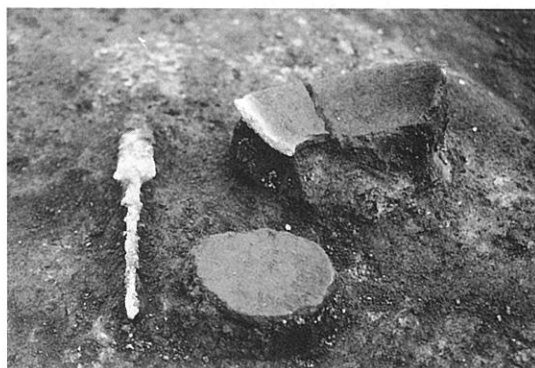
ところで、これら展示されている遺物ですが、発掘現場ではもちろんのこと、現場での作業が終了した後も、展示場で皆さんにご覧いただくまでには、かなりの時間と労働力が費やされています。

実際発掘調査を行っている、土器が元の姿が判るような状態で出土することはごく稀で、割れた破片の



▲ 発掘現場の作業（本郷遺跡第1次）

状態で出土する場合がほとんどです。出土した土器の破片は泥だらけです。から、持ち帰るとまずきれいに洗浄して乾燥し、どこの遺跡のどの部分から出土したものを記録します。土器のなかには、長い間土の中に埋まっていた非常に壊れやすくなっている物もありますので、注意して取り扱わなければなりません。その後、土器の破片を接合し、割れる前の姿に復元する作業を行います。小さな破片も見落とさないように、また、全体の形状がゆがまないように、破片一つ一つの形状や模様、色などを手掛かりに復元していきます。まるでパズルのような作業ですが、非常に注意力と根気が必要です。土器



▲ 遺物の出土状況（中町立道西遺跡第1次）



▲ 遺跡の出土状況（淀の内遺跡第2次）



▲ 遺物の出土状況（三夜塚遺跡第3次）

に対する知識や経験も重要です。
 なお、通常発掘調査を行った場合は発掘調査報告書という本を発行しなければならぬため、復元作業が終わった後にも、復元した土器の実測図を作成したり、写真を撮影したり、あるいは遺構の記録図面を整理したりといった作業が必要となります。大まかな説明ですが、出土した遺物はこのような作業を経て展示されるに至ります。

展示される遺物と

されない遺物

しかし実際のところ、発掘調査で出土した土器の破片が全て復元でき

るといわけではありません。復元作業が終了した後は、他の土器片と全く接合できない土器片、あるいは、いくつかの土器片を接合できたものの、壊れる前の姿が判明するほどには復元できなかった土器などが大量に残ります。むしろ、展示できる姿にまで復元できた土器の方が少ないという場合が多々あります。これら元の形にならない土器の破片が展示されることはまずありませんが、展示に用いられる遺物と同様に文化財として保管しておかなければなりません。

増える遺物と収蔵庫

当然のことですが、発掘調査が行



▲ 伝承館の展示コーナー（殿村遺跡出土土器）

われるたびに保管する遺物は増えていきます。せっかく復元した土器も、展示のスペースの都合で展示しきれないため、多数のものが収蔵スペースに保管されているという状態になります。増え続ける遺物の収蔵スペースの問題は、全国各地の自治体の悩みとなっており、現在のふるさと伝承館内の収蔵スペースにも展示コーナーにあるよりも遥かに大量の遺物が保管され、すでに飽和状態となっているのです。

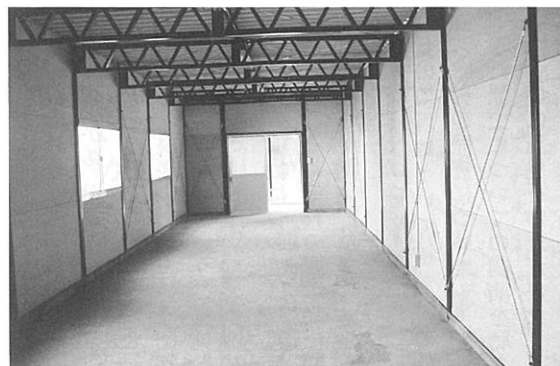
しかも、これら増え続ける大量の遺物は、ただ保管しておけば良いというわけではありません。遺跡から出土した遺物は皆の共有の文化財で



▲ 伝承館の展示コーナー（淀の内遺跡出土土器）

あるわけですし、何があるのかを把握し、必要な時に必要なものをすぐに出してこれるように整理しておかなければ、展示の模様替えなどをすることもできません。

ふるさと伝承館にとって、展示コーナーがいわゆる表舞台だとすると普段皆さんの目に触れることのない各種の整理作業や収蔵スペースなどは、表舞台を支える裏方ということになります。今回伝承館の横に建てられた収蔵庫は、あまり大きくないプレハブの建物ですが、この裏方の仕事の中心となるものであり、ふるさと伝承館を支える土台の一部ともなり得るものなのです。



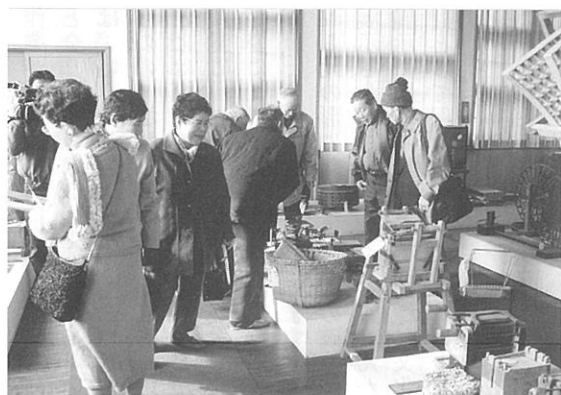
▲ 今回完成した収蔵庫の内部

伝承館からおしらせ

同窓会で伝承館へ

平成一六年三月六日、この日ふるさと伝承館では、なんと三十五人ものお客様をお迎えすることになりました。いつにない賑わいを見せた伝承館ですが、この日伝承館を訪れたのは、山形小学校昭和十一年度入学の同窓会の皆さんです。

まず最初に、ふるさと伝承館の中川館長から伝承館について全体的な説明が行われ、その後順路に沿って見学が行われました。とりわけ農機具と養蚕機具の展示コーナーの人氣



が高かったようで、「これは自分も使っていた。」「昔自分の家にも置いてあった。」といった声が多く聞かれました。見学終了後には、山形小学校で記念撮影が行われたそうです。

今までにない試みが行われたわけですが、今回の同窓会のメンバーの中に、ふるさと伝承館の運営審議委員を務めている方がいらつしゃって発案されたものです。寒い所での見学会となつてしまいましたが、お越し下さった皆様には厚くお礼申し上げます。また、他の学年の皆さんもよろしければ、同窓会・同級会の折などに是非ご利用ください。

アンケートの実施

ふるさと伝承館では現在、館運営の参考とさせていたため、来館されたお客様にアンケートへのご協力をお願いしております。質問の内容は次の6項目です。

- 1 本日ふるさと伝承館をご覧になって、どの展示が良かったと思われませんか。
- 2 良くなかったと思われる展示はありましたか。
- 3 今後、どのような展示を見たいと思いますか。
- 4 ふるさと伝承館では歴史講演会を開催していますが、ご覧になったことはありませんか。
- 5 歴史講演会で聴いてみたいテーマ、講師などご要望がありましたらお教えください。
- 6 ふるさと伝承館に関する印象、感想、その他ご意見などお聞かせ下さい。

アンケートは最近始めたばかりでまだあまり集まっておりませんが、三月六日に来館された同窓会の皆さんにもご協力をお願いしました。ご回答いただいた中では、次のようなご意見が多く見られましたので紹介いたします。

1の項目については、先程述べたように農機具や養蚕機具が良かったとの回答が多いようです。また、「囲炉裏端が良かった」、「道祖神関係の展示が良かった」という回答や、全体的に良かったというご意見も多かったです。

2と3の項目については、展示品は良いが、それぞれの展示品に関する説明が足りないというご意見を多くいただきました。

5の項目については、「村の成り立ちや村の歴史について」、「生活に則した歴史についての講演を聴きたい」とのご意見をいただきました。

6の項目については、「ピーアールの充実が必要」、「大勢の人に見てもらうことが必要」、「展示をもっと広くしてほしい」、「建物の修理が必要なのは」、「無理して続ける必要はない」、「広範囲のものが集めてあって良かった」などのご意見をいただきました。

厳しいご意見もありますが、今後に役立てていきたいと思えます。

また、今回初めて伝承館を見たという方もいらつしゃいました。ぜひ大勢の方に来館していただき、様々なアイデアやご意見をお聞かせ願いたいと思います。